

(テーマ) 在宅緩和ケアチームをどうつくるか

(申請者) 芝 みち代

(助成対象年度) 2013年度後期

(提出年月日) 2014年12月5日

テーマ：在宅緩和ケアチームの形成

ナースネット

開催：H26.10.23 19:00～21:00

参加者：54人

30歳代～50歳代

医師 看護師 ケアマネ 介護士 薬剤師

（報告・感想）地域で在宅医療に取り組んでいる訪問看護ステーションが中心となって、年5～6回年間計画のもと、勉強会を継続して開催している。

勉強会は6年継続しており、訪問看護師の質の向上に役立っている。次の課題として、訪問看護の経験の少ない看護師や介護士、ケアマネが緩和ケアの知識技術が向上することである。在宅緩和ケアチームが強化されることで市民が安心して最期まで在宅療養ができる。

本年は、神戸大学病院に、筑波大学から木澤特命教授が着任した機会に、大学病院と地域との連携のもと、在宅緩和ケアチームの強化するための講演会と企画した。

また、ナースネットの定例会は、介護士など多職種への参加しやすい会場に変更した。

木澤教授は、海外の緩和ケアチームや、ACPの考え方を紹介し、日本の文化、事情にふさわしい在宅緩和ケアチームの形成を示唆された。

大学病院の看護師や市民病院の医師、看護師も参加し、病院医療者と介護・福祉領域のスタッフと顔がわかる交流ができ、今後につながる有意義な勉強会となった。

本講座は公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成により行うことができ、深く感謝申し上げます。

26年度ナースネット 実施報告

対象：

- ① 訪問看護ほすぴす・あさんて訪問看護ステーション
- ② 在宅療養支援診療所強化型医師（①にかかるムーンネット）
- ③ 地域在宅緩和ケアに携わる医療者と介護福祉の実務者

場所：在宅緩和ケアセンターほすぴす カンファレンス室

定員：50名

時間：19時～20時30分

- 1) 2014年2月25日火曜日 事例検討

事例提供 訪問看護あさんて

劣悪な環境にある終末期患者の支援について

マインドマップを使って意見交換を実施

参加人数：32名

- 2) 2014年4月22日火曜日 中止

- 3) 2014年6月26日木曜日 情報交換 強化型療養支援診療所

参加人数：16名

- 4) ○2014年9月23日火曜日

講演 神戸大学病院患者支援センター

がん看護専門看護師 藤原由佳氏

事例提供 関本クリニック

文化が違う外国人への在宅緩和ケアを行うことが困難だった事例

参加人数：41名

5) ○2014年10月21日火曜日

神戸大学大学院医学研究科内科系講座先端緩和医療学分野

教授 木澤義之 先生

「在宅緩和ケアチームケア」講演

参加人数：48名

6) 2014年11月25日火曜日 情報交換

情報提供 ホームケアクリニック五島クリニック

参加人数：28名

参加者)

訪問看護ほすぴす・デイほすぴす 訪問看護あさんて・なごみの家・デイサービスあさんて

関本クリニック 森本医院 石川リハビリ脳神経外科 ホームケアクリニック
こうべ

しんじょう医院 小林医院 地域の薬局

神戸大学病院看護師・西市民病院看護師 中央市民緩和ケアチーム医師

職種) 医師・看護師・介護士・ケアマネ・薬剤師・PT

本年度ナースネットは、公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成により開催しました。勇美記念財団のご支援に感謝申し上げます。